

## 音声ガイド付き DVD のアクセシビリティ

### ー操作インタフェースの問題点を中心に

小松幸男\*, 益子大輝\*\*, 植村八潮\*\*\*, 野口武悟\*\*\*\*

\*専修大学文学部 \*\*専修大学文学部

\*\*\*専修大学文学部 \*\*\*\*専修大学文学部

\*lz280011@senshu-u.jp \*\*lz280018@senshu-u.jp \*\*\* yashio@isc.senshu-u.ac.jp

\*\*\*\* takenori@isc.senshu-u.ac.jp

本研究では、音声ガイド付き DVD について、DVD を対象としたインタフェース調査と制作側へのヒアリング調査を行い、操作インタフェースの問題点を明らかにした。調査の結果、DVD を音声ガイド付きで再生する場合、操作方法別に 3 パターンに分類されることが分かった。また、調査結果をもとに、視覚障害者にとって使いやすい操作インタフェースを検討し、課題や問題点を明らかにした。

### **Preliminary investigation about an accessibility of DVD with an audio guide. The problem of operability when viewing by visually impaired people.**

Yukio KOMATSU\*, Daiki MASHIKO\*\*, Takenori NOGUTI\*\*\*, Yashio UEMURA\*\*\*\*

\*School of Literature, Senshu University \*\*School of Literature, Senshu University,

\*\*\* School of Literature, Senshu University \*\*\*\* School of Literature, Senshu University

#### 1. 研究背景

音声ガイドとは、美術館や博物館の展示説明をはじめ、観光施設や歌舞伎などの伝統芸能を鑑賞する際に展示物の解説や内容を音声で聞くサービスのことである。近年では外国人のために多言語に対応しているものもある。

また、主に映画鑑賞の際に、視覚障害者のために、画面に映る場所の情景、人物の表情や、動きを音声で解説したものも音声ガイドと呼ばれている。日本において映画の音声ガイドは、Palabra 株式会社や特定非営利活動法人シネマ・アクセス・パートナーズ、バリアフリー映画鑑賞推進団体シネティ・ライツ等の企業、団体の活動によって制作が行われている。

特定非営利活動法人メディア・アクセス・サポートセンターは、年別の「日本語字幕・音声ガイド作品一覧」をウェブサイト上で公開している。それによると、邦画における音声ガイド付き上映

作品の割合は、2014年の1%未満から2017年には約10%まで上昇しており、音声ガイドが普及し始めていることがうかがえる。

この背景として、Palabra株式会社の提供する映像コンテンツのバリアフリー化アプリである

「UDCast」の登場を指摘できる。「UDCast」はスマートフォンで音声ガイドを聞いたり、日本語字幕を表示したりすることができるアプリである。視覚障害者は同アプリをインストールしたスマートフォンに、予め「UDCast」対応映画の音声ガイドデータをダウンロードした上で、映画館に足を運ぶことで、容易に音声ガイドを聞きながら上映を楽しむことができる。

一方、パッケージとして発売されているDVDにも音声ガイドの付いている作品（以下、音声ガイド付きDVD）もある。視覚障害者の映画作品鑑賞の手段として一定のニーズを持つ音声ガイド付きDVDであるが、その仕様に統一性がない。

そのため、音声ガイド付きであるにもかかわらず、本編を再生するためには、視覚障害のない支援者の手伝いが必要になるケースも少なくない。音声ガイド付きDVDはインタフェースの操作性、音声ガイドに音声ガイドを付けるか付けないかの意思決定を含めた制作過程など、これまで明らかとなっていない点が多い。これらを明らかにすることは視覚障害者の情報アクセシビリティを向上させる一助になると考える。

## 2. 研究目的

そこで、本研究では、音声ガイド付き DVD 収集したうえで、実際に再生し、視覚障害者にとって使いやすい操作インタフェースとなっているのかどうかを検討する。また、音声ガイド付き DVD の製作者側にヒアリング調査を行い、仕様の標準化に向けての課題を明らかにすることを目的とする。

## 3. 研究方法

本研究では、2014年から2017年に発売された音声ガイド付き DVD78作品のうち、入手が困難だった2作品を除く76作品を調査対象として収集し、再生手順や動作状況を調査した。調査対象の選定にあたっては特定非営利活動法人メディア・アクセス・サポートセンターがウェブサイト上で公開している情報を参考とした。

また、制作者側へのヒアリング調査として、音声ガイドの制作を行っている Palabra 株式会社と音声ガイド付き DVD を制作している日活株式会社の担当者に行った。Palabra 株式会社への調査は2018年1月30日、日活株式会社へのヒアリング調査は2018年4月26日に行った。

## 4. 研究結果

### 4.1 インタフェース調査

音声ガイド付き DVD を実際に再生し調査した結果、再生時の動作状況の違いから、3つのパターンに類型化されることが分かった。それぞれの

パターンによって、音声ガイド付き本編の再生までにたどる順序をまとめたものが図1から図3である。なお、これらの図の説明においては DVD 挿入時の新作映画広告の再生プロセスに関して省略している。

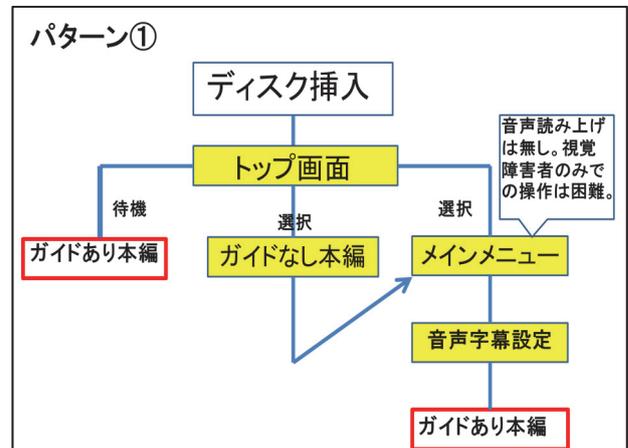


図1：パターン①音声ガイド標準再生

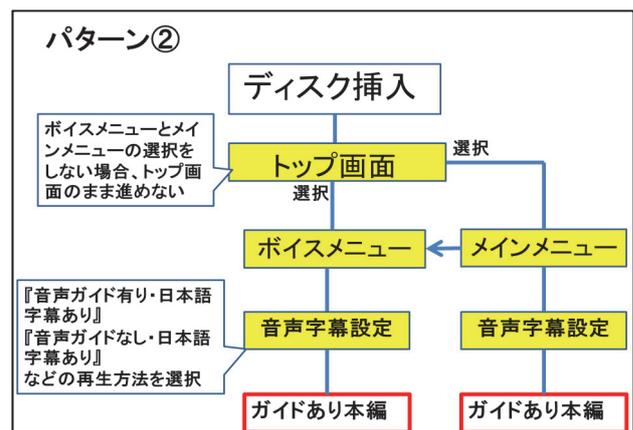


図2：パターン②音声ガイド選択再生・メニュー読み上げ再生

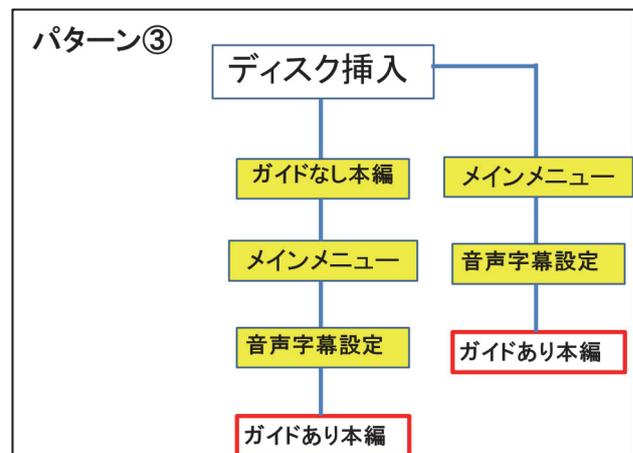


図3：パターン③音声ガイドなし標準再生

図1に示したパターン①「音声ガイド標準再生」はDVD挿入後、もしくは新作映画広告の再生後、当該DVDに音声ガイドが収録されていることを示す「トップ画面」が表示される。パターン①ではトップ画面中で何の操作もせずに数秒間待機していると音声ガイド付きで本編が自動再生される。

通常再生したい場合はトップ画面中の「メインメニュー」を選択し、メインメニュー内の「本編再生」を選択するか、「ガイドなし本編」を選択することで再生ができる。また、操作を誤った場合はディスクを再挿入することで再度トップ画面を表示させる事ができる。

図2に示したパターン②「音声ガイド選択再生・メニュー読み上げ再生」は、音声ガイドの他にメニュー内項目を音声で読み上げるメニュー読み上げ機能が付いている。パターン②はトップ画面までの流れはパターン①と同様であるが、トップ画面でボイスメニュー（読み上げ機能付きメニュー）か通常メニューどちらかを選択することになる。選択を行うと各メニュー画面に移行するが、選択しないとトップ画面の状態にとどまる。ボイスメニューと通常メニューはどちらも、メニュー内の項目を選択して切り替えることができる。また、パターン①と同様に、動作を誤った場合はディスクを再挿入すればトップ画面を再表示できる。

図3に示したパターン③「音声ガイドなし標準再生」は本編に音声ガイドは付いているものの、パターン①のような自動再生機能もパターン②のようなメニュー読み上げ機能もないDVDである。トップ画面は存在せず、ディスク挿入後、音声ガイドなしの本編がいきなり再生されるか、メニュー画面に移行する。音声ガイド付きで本編を鑑賞するためには一度メニュー画面に移動した後、音声設定から音声ガイドを選択する必要がある。3つのパターンのなかでは、最もアクセシビリティが低いパターンといえる。

また、なお、パターン①と②、すなわち自動再生機能とメニューの読み上げ機能の両方を収録した作品も、2点存在した。

以上の各パターンを集計するとパターン①が

47作品、パターン②が11作品、パターン③が16作品、その他が2作品であった。

音声ガイド付きDVDの発売年別推移を見ると、図4に示すように2014年から2016年までは隔年の合計が13で推移していたが、2017年には39まで大幅に増加していることが分かる。パターン別ではパターン①が2017年に29作品と大幅に増加している。

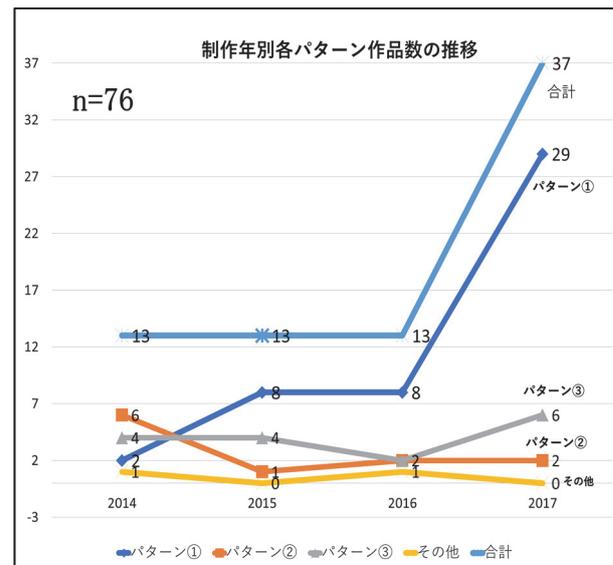


図4：制作年別各パターン作品数の推移

## 4.2 ヒアリング調査

### 4.2.1 Palabra 株式会社

Palabra 株式会社の業務は、主にクライアントである映画会社からの依頼を受けて、音声ガイド原稿や日本語字幕を制作することと、先にも述べた「UDCast」の管理運用などである。

音声ガイドの制作プロセスは大まかにいうと、クライアントから提供される素材をもとに音声ガイド原稿を作成し、視覚障害者によるモニター検討会を通して修正し、音声を収録することで完成する。音声ガイド付きDVD制作に際しては、上映時に作成した音声ガイドデータをそのまま活用することができる。

また、DVDディスク挿入時のトップ画面に流れる音声ガイドが付いている旨のナレーションなども含め、ある程度のパッケージとして依頼を受

けることもあるという。コストとしては、原稿料、ナレーション費やモニター検討会費などがあげられる。

作品の中には映画館で音声ガイド付き上映を行ったものの、DVD化の際には音声ガイドが付かないもしくは収録されない場合もある。これは費用面での問題と、音声ガイドの認知の問題、映画会社やパッケージ製作会社間の情報共有の問題が考えられるという。

#### 4.2.2 日活株式会社

現在、映画制作では複数の会社で資金を出し合い、利益を配分する委員会方式が主流である。音声ガイド付きDVDを制作する場合は、製作委員会に出資し、販売権を獲得したパッケージ会社がDVDの仕様に関する決定権を持ち、音声ガイドを付けるか付けないかや、メニューの読み上げ機能の有無などの仕様は、すべてこのパッケージメーカーの裁量となる。音声ガイドあるいは聴覚障害者用日本語字幕に関しては、決められた仕様や基準が存在せず、過去作品を参考にしながら作品ごとに判断され制作される。

また、DVDというパッケージソフト自体が売れない時代になってきており、かつ仕様を決定する際はどうしても視聴者のメインである健常者仕様ということになってしまう。音声ガイド付きDVDについて一般の理解が進んでいないこともあり、健常者の視聴者から音声ガイド付きDVDのトップ画面が邪魔であるとの声がかかることもあるという。こうした現状の中で、制作費用が割高となる音声ガイド付きなどのバリアフリー仕様のDVDは優先順位が下にならざるを得ないとのことであった。

### 5. 研究の考察と今後の課題

本研究では、音声ガイド付きDVDのインタフェースがどのような動作状況となるかを明らかにできた。また、DVDに音声ガイドを付けるか付けないなどの裁量はパッケージ会社にあり、統一的な仕様や基準が無いまま試行錯誤でDVD制作

を行っている現状も明らかになった。

今後の課題としては、当事者である視覚障害者に意見を聴取しつつ、音声ガイド付きDVDのバリアフリー化に関するガイドライン試案を提案したいと考えている。また、近年シェアを拡大しつつある映像配信サービスやその他の映像コンテンツのアクセシビリティについても、調査の対象を広げていきたい。

#### 注・文献

- [1] 野口武悟.「合理的配慮の基盤」としてのアクセシビリティ:障害のある人にもない人にも情報を届けるために. 情報管理. 2015, vol.58, no.4, p.259-270.
- [2] “バリアフリーDVD&Blu-ray 情報”.特定非営利活動法人メディア・アクセス・サポートセンター.  
<http://npo-masc.org/db/>, (参照 2017-12-23).
- [3] “映画上映に関するバリアフリー対応に向けた障害者の視聴環境の在り方に関する調査事業平成 27 年 3 月報告書”.経済産業省.  
[http://www.meti.go.jp/meti\\_lib/report/2015fy/000192.pdf](http://www.meti.go.jp/meti_lib/report/2015fy/000192.pdf), (参照 2017-12-23).
- [4] “UDCast - 全てのコンテンツに字幕と音声”. Palabra 株式会社.  
<http://udcast.net/>, (参照 2017-10-15).

#### 【謝辞】

ご多忙のところ、ヒアリング調査に協力いただいた Palabra 株式会社と日活株式会社のご担当者には、心より感謝申し上げます。

#### 【付記】

本研究は、平成 29 年度専修大学情報科学研究共同研究「テレビ・ビデオにおけるアクセシビリティに関する予備的調査：DVD/BD コンテンツの視覚障害者利用と操作メニュー等の検討を中心に」の成果の一部である。